

ミラージュ・カープラザカップ第1戦 CMSC 栃木 添田正選手 シリーズ初戦を制す!



CMSC栃木 添田 正 ミラージュカープラザカップ第1戦優勝記

今年からCMSC栃木に入会させていただき、ミラージュカープラザカップシリーズに参戦することになりました。マシンはこれまで3シーズン使用してきたミラージュですが、郡司モーターサービスの方々のお力添えをいただきサスペンションやブレーキの状態も良好になり、さらにシーズン前の練習走行も例年以上に走らせていただきました。十分な手応えを感じながら万全の体制で、4月19・20日、筑波サーキットでの今季第1戦に挑むことができました。

予選は他車に引っ掛かってしまい目標タイムには届かなかったものの、何とか2位で終了。予選7番手タイムまでがコースレコードです。他車の熱い走りの中で私も気合いが入ります。

しかし決勝の大事なスタートでは気負い過ぎて失敗し

万全の体制で5年ぶりの優勝

てしまい2番手キープが精一杯。それからは後半勝負と頭を切り替えトップを走りました。しかし3周目、トップ松田選手にこの日のファステストラップをたたきだされてしまい、以降は徐々にトップとの差が開き始めてしまいました。中盤までその差は1秒500。ところが8周目に突然、松田選手がエンジントラブルでリタイヤしてしまい難無くトップに立つことができました。以降は後続との間隔をキープしつつタイヤをいたわり、コンスタントに1分05秒台のタイムで周回。無事トップでチェッカーを受けられました。このクラスではターボ車以来5年ぶりの優勝です。

今年マシンも体制も良いので残りのレースもチャンピオン目指して頑張りたいと思います。

久しぶりに1位の表彰台に立つ添田選手。



全日本ジムカーナ
第1戦 CIIクラス

小館 久選手 CMSC青森 今季初戦で優勝!

3月23日、千葉県「浅間台スポーツランド」を会場に'97全日本ジムカーナの今季初戦が開催されました。朝から雨が降ったり止んだりのあいにくのコンディションでしたが、C IIクラスではCMSC青森の小館久選手が、昨年第3戦以来、久々の勝利となりました。

路面の所々に水溜まりが出来た第1ヒートでは、小館選手は大きくタイムロスし、1分24秒681。しかし路面状況が幾分良くなった第2ヒートでは素晴らしい走りを見せてくれました。パイロンで設定されたコースを果敢にアタック。コーナーへの突っ込み、そしてすばやい立ち上がりからの加速と申し分の無い走り、1分04秒276のベストタイムをたたき出します。最終スタートの昨年チャンプ、高橋選手はこのタイムに届かず、小館選手が見事、勝利を手にしました。初戦を飾り幸先のよいスタートで、今季の活躍が期待できます。

今シーズン幸先のよいスタートを切った小館選手。



CMSC仙台 高橋しげる ミラージュ東北シリーズ第1戦優勝記

96年はシリーズチャンピオンにあと一歩及ばず2位でシリーズを終えました。97年に賭ける意気込みは人一倍強く、車作りにも気を配りました。昨年1年間酷使したエンジン、足廻りに細かい所まで目を通し最高の状態に仕上げ、4月26・27日の「仙台ハイランドレースウェイ」第1戦に臨みました。

予選前日の練習走行では自分のベストタイムに近いタイムが出たので、良い結果を出せる自信ができました。

予選当日、それほどプレッシャーも無く良いコンディション。タイムアタックではタイヤを大事にしながら1周目は流す感じで温めて、2周、3周でアタック。結果、ポールポジションを取ることが出来、ホッとしました。

決勝当日、天候、晴れ。気分も最高。スターティンググリッドが一番前。スタートが近づくにつれ、だんだんドキドキしてくるのがわかりました。そしてスタート。12週のレースが開始。スタートでは慎重にトップのまま1コーナーに入りました。2番手の選手の様子をミラー越しに伺いながら1周目を走りました。ところが2周目、予測していなかったア

初のポール・トゥ・ウィン

クシデントが発生。1コーナーに進入する所で「バキッ」という音がしたと思ったらシートレールがガタガタし始めました。この状態であと10周も走るとかと思うと冷や汗が出てきました。シートが取れると自分の身がとても危険なので、ピットにいる監督に助けを求めようとしたのですが、そんなことをしていたらレースが終わってしまいます。「ちくしょう、シ

ートが取れても走りきってやる」と思い、注意しながら全開で走り続けました。そして何とか無事完走。2位に5秒のタイム差をつけ1位でゴールしました。

第2戦SUGOではまた表彰台の一番高いところ、そしてシリーズチャンピオン目指し、精一杯頑張ります。

Pole to Win 完勝の高橋選手。



猛追、実って喜びの表彰台

CMSC栃木 内堀篤史 ミラージュカープサザカップ第1戦参戦記

ミラージュC A 4 Aに初めて乗る私は、これまで同じ栃木の添田選手と2台体制で練習をしてきました。何より一刻も早くレースをしたいと思いつつ迎えた4月19・20日、暑いくらいの陽気の中、私のミラージュカップ初戦は始まりました。予選は34台が一度にタイムアタックをするという状況の中、7番手。事前の練習では1分4秒台が出ていたのですが、クリアラップがとれず不本意な結果となってしまいました。

決勝はとにかく思いっきり走ろうと意気込みは十分でしたが、スタートがあまりうまくいかずポジションを維持したまま1周目は終わってしまいました。2周目から前後の車輛とバトルを繰り広げることとなりました。ラスト数周になると今年から導入されたタイヤ4本規定に泣かされながらも、ベストラップは必ず頂こうと前の車輛を追走しました。悔しいことにベストラップにはもう一歩届かなかったものの、3位でチェッカーを受けることが出来ました。地元筑波の



激しいバトルを繰り広げる内堀選手。

レースは落とせないとは思っていましたが、初戦で表彰台に立てるとはとにかく嬉しい気持ちの良いものでした。しかし、同時に予選及びレースの難しさを思い知り、沢山の

課題が見え始めたような気がしました。これからもっと良い成績をご報告できるよう今まで以上に頑張っていきたいと思えます。

CMSC浜松 相原保雄 全日本ダートラ第2戦AIIクラス優勝記

4月27日、今回もミラージュが大半を占めたAIIクラス。毎回、今一つの成績しか出せない「丸和オートランド那須」での試合。おまけに今回は車(第1戦目に壊してしまった)の仕上がりがなんと前日の夜。仕事を終えてドタバタと支度をして、キャリアカーで愛車を迎えに行き、そのまま丸和へ移動しました。どうも相性の悪い丸和。毎回全力で走っているのですがなかなか良い結果を出すことが出来ずにいました。

今回も1TRYは5番手の位置にいました。2TRYはとにかく無我夢中で走りました。大きなミスも無く、それなりに満足した走りが出来ました。ゴール後、アナウンスでなんと1位に踊り出たと聞きビックリしました。残るはラストセクシンのCMSC岐阜・篠田選手のみ。いけるかもしれない! 篠田選手のゴール後、自分の優勝が決定しました。今回の優勝は実に5年ぶりの事で、本当に嬉しかったです。2TRYは思った通りのラインで走ることが出来たのと、タイヤの選択が良かったのが勝因だと思います。今回の優勝をまぐれにしないためにも、新たな気持ちで次回に参戦したいと思います。

苦手のコースを見事、制する



久々の優勝になった相原選手。

CMSC札幌 谷口浩二 全日本ダートラ第1,2戦AIIIクラス参戦記

昨年後半から乗り替えたC73Aは安くクラストップマシン。私自身も地区戦満点チャンプ。スポット参戦の全日本も成績上々という事で、チーム監督兼メインスポンサーである妻を口説き、今季、プライベートで「全日本にフル参戦」という事になりました。ボディもミラージュ4Drに替えカラーリングもしてカッコ良くしようということになりましたが、第1戦までは1ヶ月しか無く、オートオフィスサポート宮本社長のお陰で何とか船積みの前日、車は出来上がりました。しかし、3月末の札幌は残雪。試走も無しで車は九州へと旅立ちました。

仕事の方も繁忙期の為(三菱さんとは馴染みの深い横浜タイヤ販売)公開練習も欠席し、4月6日第1戦九州当日。この車で走るのも今年ダートを走るのも初めてです。セクシンもラストスリーで緊張します。しかし、スタートですぐに1本目の結果は分かりました。1コーナーアウトの壁にグサッ! 内周でもグサッ! グサッ! セッティング無しがあたり車は全く曲がりません。「北の果てから来てこのままでは帰れない」。2本目は走りを切り替え、何とか4位で終了。喜びもつかの間、翌日からの仕事の為、表彰式も欠席して帰路についたのでした。

4月27日第2戦丸和ではよい結果が出せず、2戦終了

残雪の札幌から参戦



仕事の合間を縫っての参戦でも4位と健闘。谷口選手。



時点でポイントランク8位。しかしシリーズはまだ始まったばかり。今後の戦いも全力で頑張ります。

CMSC香川 4月6日

'97CMSCアストロトライアル

'97CMSCアストロトライアルを主催しました。今回の大会は私たちが今まで主催した大会の中で最悪の天候、コースコンディションでした。大会3日前から雨が降り続き、当日も一日中雨。その上に霧が出て、競技車を確認することができなくなり、度々の中断で、1時間以上もロスしてしまいました。エントラントも水田と化したコースに手こずっていました。幸いにも1台の転倒車も無く競技は無事終了しましたが、オフィシャルもエントラントも非常に疲れた1日でした。
(CMSC香川 白井 修)

悪天候に疲れた一日



写真上、AII位藤沢選手。写真下、AIV位高竹選手。

CMSC島根 古藤浩美 コトーの連続コーナー⑥

鉄砲玉

ついに来るCMSC全国大会
クラッシュが増える中CMSC
見逃しを許さずその存在を示すため
1SC根絶
全国大会
必勝法

質より量
クラブ員増出で
ボクシングを極く
名アゲて

玉子ス
なごり込み
なごり込み
だが!

全員ミスコース……

CMSC広島 5月18日

中国三菱杯CMSC広島ダート'97

エントラントの日頃の行いが良いのか、オフィシャルの行いが良いのか、絶好の五月晴れのTESTAで今年も行われたダートイベントは111台とキリの良いエントリーを集め、盛大に行われました。

A IIクラスは21台での熱い戦いの中、昨年の新山信夫選手のミラージュを購入した山本剛選手が2位を何と3秒以上ぶっちぎって優勝し、ゴキゲンでした。

A IVではぶつつん切れた人々による激しいバトルが展開されました。25台の頂点に立ったのは、今年エボIVに乗り替えた三浦禎雄選手。2位を1秒半離して堂々の優勝でシリーズストップ。転倒が1台あったものの大きなトラブルも無く、表彰式も大いに盛り上がり、楽しい一日でした。皆さん、また来年も宜しくお願いします。

(CMSC広島 平原和幸)

五月晴れの下、激しいバトル



写真左、A IV位三浦選手。写真下左、A II位山本選手。写真下右、左から三菱賞1位三浦、2位竹明、3位横山、4位森信の各選手。



CMSC群馬 3月16日

CMSC群馬ダートトライアルin那須

本年度のCMSC群馬主催のダートトライアルは、J M R C群馬ダートトライアルシリーズの第1戦として丸和オートランド那須にて3月16日に開催されました。群馬ダートシリーズの特色は、そのクラス分けです。通常のA I~C&Dの他に初心者を対象としているF I~IIIというクラスを設けており、ビギナーでも優勝争いができること好評を博しております。(CMSC群馬の若手も活躍しているクラスです)

さて、競技当日丸和はなんと雪でした。いくら我がCMSC群馬のイベントは常に悪天候に見舞われるとはいえ、これには皆凍りつきました。しかし、競技は比較的スムーズに進行し、大きなトラブルも無く終了。一同凍りつい

ビギナーも優勝争いを

た手足をほぐしながら、春まだ遠き那須を後にしました。最後に協賛していただいたスポンサー各位、エントラント、オフィシャルの皆さんにこの場をお借りして御礼申し上げます。(CMSC群馬 船津康一)



CMSC青森 5月25日

'97CMSCジムカーナin青森

恒例となっているCMSC青森主催のジムカーナシリーズ第1戦を、岩木山スキー場駐車場特設コースで開催しました。当日は朝から雨模様であいにくのコースコンディションでしたが、クローズトクラスを含め第1戦としては、これまで最高の73台出走と、少しずつですが参加台数も増えています。参加者は県内がほとんどですが隣県の秋田や遠くは仙台からの参加選手もあり、ジムカーナ人気そして選手の熱い思いが伝わってきます。

さて、競技はウェット路面で選手は車のコントロールに悪戦苦闘でしたが、最後まで諦めずバイロンをクリアー。

ジムカーナファン青森に集合



第1戦は無事終了しました。

第3戦は8月17日(10日から変更)に開催します。

CMSCメンバーの方、そして多くのジムカーナファンの参加をお待ちしています。(CMSC青森 小館 久)

CMSC大阪 3月2日

CMSC&ホワイトスーパーダートトライアル

今年も恒例の行事として、新日鉄堺オフロードウェーに於いて'97近畿地区地方選手権第1戦ダートトライアルを開催しました。とは言いましても、CMSC大阪は準加盟という訳で、加盟クラブとの共催という形で行いました。このコースは昨年の全日本戦に使用したコースで、第1戦目ということもあり、150台ものエントリーが有り盛大に行われました。

当日は非常に良い天気となり、各ポストのオフィシャル

150台エントリーで盛大に開催

達の頑張りで、事故も無く競技を進められました。最近のエントラント数減少傾向の中で、今回は150台の出走となった事と、コース設定を全日本戦と同じにした事により、ハイスピードで走り甲斐のある競技会となりエントラントにも好評でした。また、三菱賞は総合でも1位だったC3クラスのランサーE Vが受賞しました。

今回のイベント開催にあたりご支援頂いたCMSC本部隊にはこの誌面をお借りして御礼を申し上げます。今後もしもさらに頑張りますので宜しくお願いします。

(CMSC大阪 杉本達也)



CMSC愛知 松井孝夫
全日本ラリー第3戦Bクラス優勝記



念願の全日本初勝利の松井選手(左)。

全日本ラリー第3戦「春一番MCA BARU'97」は大分県湯布院町の山下湖を中心として3月22～23日に開催されました。ラリーの構成は2ステージ制でそれぞれダートステージ(オールダート、S S約10km)、ターマックスステージ(オールターマックス、S S約40km)と明確に分けられており、全日本戦としては非常に珍しいターマックスS Sを主体としたラリーです。

ターマックスラリーが非常に多いことで有名なD E地区(中部、近畿地区)で育ったターマックスが大好きな私は、第1ステージはそこそこ抑えて自分のペースを掴み、ターマックス中心の第2ステージに勝負をかける作戦を立てました。今シーズン初めてのドライイベントである事と、地元

作戦通りで全日本ラリー初勝利



九州のスペシャリストが非常に速いという事前情報により、不安は隠せませんが、これから本格的に始まる長いシーズン全体を考え「少くらしいタイムが悪くても気にせずとにかく完走するのだ」と自分に言い聞かせ、ラリーをスタートしました。

ダート中心の第1ステージ。抑え気味の私は平凡なタイムでしたが上位陣は差がつかず、10秒に10台がひしめく大混戦となり、私はトップと7秒差の5位タイ。第2ステージに勝負をかける作戦通りの展開に、私は気を良くして第2ステージに臨むことが出来ました。

オールターマックスの第2ステージでは、徐々にトップとの差を詰めていき、勝負どころの10kmに及ぶロングS Sで

のベストタイムによりトップに並びました。その時点で勝負は私を含めた3チームに絞られていました。ほぼ同減点で迎えた最終の2つのS Sで私は連続ベストタイムを出し、その結果、念願の全日本初勝利を飾ることが出来ました。

今回の勝因は、作戦通りにラリーを進めることが出来た事がまず挙げられますが、それ以上に、未熟な私にラリーに臨む姿勢をいつもご教授して下さっている諸先輩方のお陰であると思います。それらの諸先輩方やCMSC愛知を始めいつもお世話になっている関係者の方々に喜んでいただけたことが一番嬉しく思え、今後はそれを糧にしてこれまで以上に頑張っていきたいと思えます。

CMSC鹿児島 原口 真
全日本ラリー第4戦Bクラス優勝記



激戦を制した原口選手。

今年のBクラスは4月19～20日開催の第4戦「ACKスプリングラリー」まで勝者が毎回違っており、激戦が続いています。今回は私自身、初ウイナーとなりシリーズ2位で、1位に8点差となりました。前回、地元九州で本州勢に上位を独占されましたが、今回、またもや九州・大分県で、面目をやっと保ちました。

さて、ラリーは序盤のサーキットステージから始まりました。SS1、ジムカーナコース。前日の練習を頭に描き走り始めました。テクニカルセッションは前日通りで「よしいくぞ」。3速からのシケインを前日より速いスピードで走り抜ける。調子は上々と思った次の右カーブをオーバーラン。ダートを50mほど走ってしまいました。調子が良いときは

激戦クラスの今後の行方は…



ど落とし穴があるものです。トップと4秒差。先はまだ長い。ダートステージまで我慢。SS3でやっとトップタイムが出ました。SS5までのサーキットステージを、トップCMSC愛知・松井選手に14秒差で6位。「さあ、これから追い上げだ」。

阿部田隊長をはじめ地元サービス員の声援を受けロード第1ステージへ。最初のダートセッション、中川内林道52km/hのハイアベヒとつで一気に追い付きトップに並びました。後は逃げるだけと思って回りを見ると、CMSC帯広・小林選手がついて来ています。今年小林選手は一皮むけて速い。トータルではトップが私、続いて4秒差で小林選手、松井選手が3位。

勝負どころの第2ステージ。ここからは小林選手との一騎打ちとなりました。始めのSSは同秒。次のロングで離すはずが1秒負け。これで3秒差。次は2秒負けて1秒差。「あっちー尻に火がついた」。後はもう全開で行くしかない。結果、トップをキープしてラリーは終了。「よかった、よかった」。小林選手はラリー区間で15点減点をくらってしまい、しぶといCMSC道北・鎌田選手に抜かれ3位となりました。今回はトップ3をファルケンが独占し戦いは終わりました。これでシリーズは混戦となり解らなくなりました。最終のハイランドマスターズまで、きっとつれるでしょう。最後まであきらめずがんばるぞ。

CMSC群馬 岩田恒廣 群馬三菱自販・最優秀営業マン受賞

入社して24年目にして、初めて最優秀セールスマンになることが出来ました。これは今思うと、ギャランに出会えたのがきっかけのようです。

休日も取らずただ車が売りたいと働き、夜はスナックで一杯のストレス解消、そんな日々が続いていました。そんな時ギャランが発表されモータースポーツにチャレンジしたのです。それで私は日曜日には必ず競技会にエントリーしたいと思い、ユーザーとの約束をしっかりと取り付ける等、今までは余り気にかけていなかった日程をきちんと立てるようになりました。仕事にメリハリを持たせるようになると、お客様の反応も良く感じられ、車のメンテナンスの時間も作れるようになりました。

そして競技会でもだんだん上位に入る事が出来るよう

モータースポーツとの出会いが転機に

になると優勝に憧れるようになり、エポリューションに変えました。仕事も前よりも集中して取り組める様になり、自分なりに仕事・全日本戦・地区戦全てに全力でぶつかっていきました。その甲斐があって最優秀セールスマンにもなれました。その陰で協力してくれた営業所の皆さんと家族に感謝しております。

そのご褒美にと、家族で7月4日アメリカ独立記念日に行われるバイクスピークヒルクライム75回大会に、今回2度目のチャレンジをする事にしました。車はランサーRSエポリューションⅣ。参加クラスはバイクスピークオープン。カラーリングはラリーアート様の協力でラリーアートカラー。トミ・マキネンかと思わせる仕上がりです。エキゾースト音もWRCを思わせる響きで、バイク山4,300mのゴール迄全開で走ります。良い結果を皆さんにお伝えできるよう頑張ります。



バイクスピーク2回目の参戦となる岩田選手とエポⅣ。

CMSC栃木 5月11日

'97スリーダイヤモンドジムカーナ

五月晴れと呼ぶにふさわしい絶好の天候のもと、日光スピードパークにおいて'97スリーダイヤモンド・ジムカーナを開催しました。毎年この時期に栃木県ジムカーナシリーズの第3戦として当クラブが主催しているもので、毎回少ないパイロンを使って思い切り走らせる設定で好評なイベントです。今回もその例に漏れず、シンプルなコースレイアウトで、エントラントには運転に専念してもらえる心がけました。そのためかミスコースはたった1台だけ。参加台数は71台と昨年より10台以上も減少し、少し寂しいものでしたが、競技の方はコースが単純なだけにタイムアップのポイントが絞られず、0.1秒を争う白熱したものとりました。

また競技とは直接関係ありませんが、今回初の試みとしてアイスクリームの移動販売車を競技会場に呼んでエントラントに無料で提供しました。これは当日の天候に大きく左右されますが今回はまさにぴったりの企画だったようで、大変好評でした。

最近では新たにモータースポーツを始める人が少なくなっているようで、初心者向けの競技会は参加者確保に苦労しているようです。昨年まで参加していた人達も、より

おなじみの好評イベント

▶左からランサー賞1位吉葉、2位下谷、3位吉原の各選手。▼下谷選手の走り。



左からミラージュ賞1位小祝、2位堀、3位池田の各選手。

上のクラスの競技会にステップアップして底辺のイベント参加者の減少に拍車をかけています。何か良い知恵はないでしょうか。ともあれ、成功裏に終了したジムカーナでした。(CMSC栃木 町田俊英)

'97CMSC全国大会



全国大会が、下記の通り開催されます。ふるってご参加下さい。

詳しくは各支部事務局へ。

参加申込締切り 7月25日(金)

記

日時：8月23日(土)当日泊
場所：福島県二本松市東北サファリパーク内ジムカーナ(南)コース
内容：ジムカーナ競技(クラブ対抗、個人対抗) 表彰式、幹部会議、懇親会

福島首位発進。広島、青森も好スタート。

'97チャレンジカップ

前年度3位に追いつけた福島が今年度はスタートから飛ばしています。広島、青森もダッシュがきているようで、

今年は激戦が予想されます。部門別でも白熱した争いを期待しています。ゴール目指して頑張らしましょう。

●クラブ別獲得ポイント

	1~5月	6~8月	9~11月	12月	合計
福島	820				
広島	612				
青森	577				
大阪	512.5				
山形	450				
群馬	441				
道北	421				
札幌	381				
帯広	378				
香川	319				
浜松	307				
栃木	204				
岐阜	182				
埼玉	98				
島根	79				
仙台	64				
愛知	34				
岩手	30				
千葉	0				
鹿児島	0				
秋田	0				

●ラリー・ドライバー部門

小林康弘	帯広	106
奴田原文雄	札幌	100
鎌田豊	道北	73
菅野正之	浜松	69
鷹野健太郎	道北	50
杉山聡	道北	46
中島律	広島	40
田口幸宏	埼玉	34
豊嶋郁雄	道北	28
福島徳也	浜松	22

●ラリー・ナビゲーター部門

中村洋次	帯広	76
川村知恵	道北	65
野村佐江子	広島	40
生井重男	帯広	38
朝岡達也	愛知	34
本島正和	浜松	22
横山浩	札幌	15
本田辰彦	岐阜	15
内藤修一	道北	11

●ダートトライアル部門

秋間忠之	大阪	300
小川進	福島	186
湯本敬	山形	180
小出久美子	大阪	169
荒井信介	群馬	156
河内涉	広島	150
谷口浩二	札幌	150
赤羽政幸	山形	137
大泉剛	福島	127
笠原章央	群馬	126

●ジムカーナ部門

宇野慶一	青森	170
丹羽裕一	道北	140
久保田明	青森	96
小館久	青森	84
佐藤義隆	福島	72
工藤裕史	青森	70
江上逸人	栃木	46
三崎朋弘	帯広	40
高野聡	福島	36
下谷光俊	栃木	31

●レース部門

添田正	栃木	68
高橋しげる	仙台	64
内堀篤史	栃木	42
川口法行	栃木	16
丸山晃	浜松	2
藤井優	浜松	2

●ポイントのつけ方

ポイント	順位										リタイア	
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位		
A	40	30	24	20	16	12	10	8	6	4	2	1
B	20	15	12	10	8	6	5	4	3	2	1	0.5

リタイアには予選不通過も含む

A = 全日本選手権(含む、レディースクラス)、地方選手権(除く、レディースクラス) 但し、ダートトライアルにはオールスターダートトライアル ジムカーナにはJAF CUPジムカーナ レースにはミラージュカップ、NI耐久レースを含む B = それ以外の競技会